

人間の安全保障論を ジェンダーの視点から問い直す

日時：2017年9月2日（土）12:30～15:00

場所：明星大学（東京都日野市）28号館2階204 アカデミーホール

費用：大会参加費が必要です（会員3,000円 非会員3,500円 学生1,000円）

冷戦終結以降、私たちは国際紛争や国内紛争だけでなく、貧困、気候変動と災害、テロリズム、組織的犯罪、人身取引、新たな疾病、経済・金融危機など、生命や暮らしを脅かす多種多様な脅威に直面してきました。「人間の安全保障」は、これらの幅広い分野横断的な脅威に対応し、人々の生存、生活、尊厳を守るための重要な視点として位置づけられてきました。そこに「ジェンダー」の視点を積極的に加えることによって、課題の分析と実践の強化につなげていく必要があるという問題意識から、このシンポジウムを企画しました。

まず、長年にわたって人間の安全保障と平和構築に関する研究に従事され、現在「人間の安全保障学会」事務局を担われている峯陽一さんに、人間の安全保障という概念が生み出された背景、人間の安全保障論の現状、この視点を研究に組み込むメリットなどについて基調講演をしていただきます。つぎに、本学会の会員から、ジェンダーの視点に基づく災害対応について研究と実践を重ねてこられた田中雅子さん、女性の国際労働移動について豊富なフィールドワーク経験をお持ちの平野恵子さんに研究報告をしていただきます。そして自らも人身取引の研究を深めつつジェンダーの視点から人間の安全保障について研究しておられる高松香奈さんにコメントしていただきます。

人間の安全保障論の現状を確認した上で、人間の安全保障にジェンダーの視点を導入する／強化する可能性を参加者のみなさんと議論したいと思います。

プログラム

登壇者

峯陽一さん（同志社大学）

基調講演 人間の安全保障論の射程－「壊れもの」としての人間

田中雅子さん（上智大学）

報告1 「尊厳をもって生きる自由」を伝え、守る

－ネパール地震後に「女性の安全スペース」が果たした役割

平野恵子さん（北海道教育大学）

報告2 移住・家事労働者の連帯——インドネシアを事例として

高松香奈さん（国際基督教大学）

コメント

司会 加藤千恵（京都光華女子大学）・池田恵子（静岡大学）